

子供にやさしい 授業

目標

設定

導入

つかむ

考える

展

広げる

開

深める

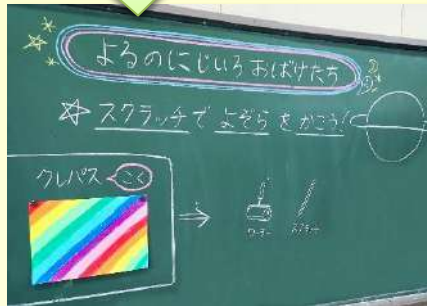
まとめ

ふりかえる

評価

①ねらいの明確化	1 単位時間で何を学び、どういう力を身に付けさせたいか、「具体的な子供の姿」を想定する
②学習過程の設定	授業をどのように構成するか、指導内容・指導方法の選定・工夫、板書計画や個に応じた支援を明確にする
③導入の工夫	既習事項や前時までの学習を想起させ、どのように課題をつかみ解決意欲を持つか、目標や課題をとかみ、学習の流れをとらえる
④解決の見通し	【自力解決】 どんな結果になるのか予想と解決方法を検討する → 一人一人が課題を持って、個人でじっくり学習する
⑤予想される児童の反応の検討	【共有・協働】 児童がどのような反応をするか予想する → ペア学習やグループ学習の時間、話し合い活動を設定し、共有、協働する
⑥集団での高め合いの工夫	【共通化・一般化】 どのように児童の考えを交流し高めるか工夫する → 構造化した板書、視覚的な提示やそれぞれの考えを発表し合い高める
⑦まとめの工夫	自分の言葉で今日の授業をまとめる → 授業で獲得したものを明確に「分かった」「できた」達成感につなげる
⑧本時の評価	児童がどのように変容したか評価 指導を振り返り、次時の授業につなげる

ねらいの焦点化 71



内容で色分け 73



話し合い 75



学び合い 77



発表の視覚化 79



主体的

対話的

深い学び



学習の流れ 72



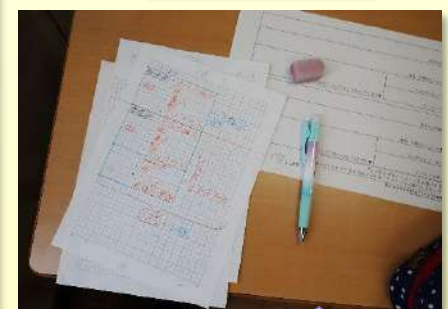
デジタル教科書 74



ペアで学習 76



思考の発表 78



思考の視覚化 80